

## マシコヒゲムシ

環形動物門

石川県カテゴリー

地域個体群

国カテゴリー

なし

*Oligobrachia mashikoi* Imajima

## 選定理由

ヒゲムシの仲間の多くは深海に生息し、浅海域のものもそのほとんどが寒流域に生息している。本種は対馬海流の影響下にある九十九湾の水深25m前後に生息していて、この種の仲間の中では大変珍しい。

## 形態

平成15年に金沢大学自然計測応用研究センター臨海実験施設の調査により完全個体が採集された。体長は13cmであった。棲管の中に生息し、色は血液のような赤色、体幅0.6mm前後、触手(10~18本)がある。

## 国内分布

能登九十九湾内に分布。

## 県内分布

能登九十九湾内に見られる。

## 生態

還元的な砂泥地に埋没し、棲管の一部と触手を底面より出して生息している。

## 生息地の条件

九十九湾内でも比較的細かい砂泥地の水深25m前後に生息しているが、平成16年には水深9m前後でも生息を確認した。

## 生存の危機

九十九湾内のみで確認しているが、比較的狭い範囲に棲息しているため、ナマコ桁網などにより、絶滅の恐れあり。

## 特記事項

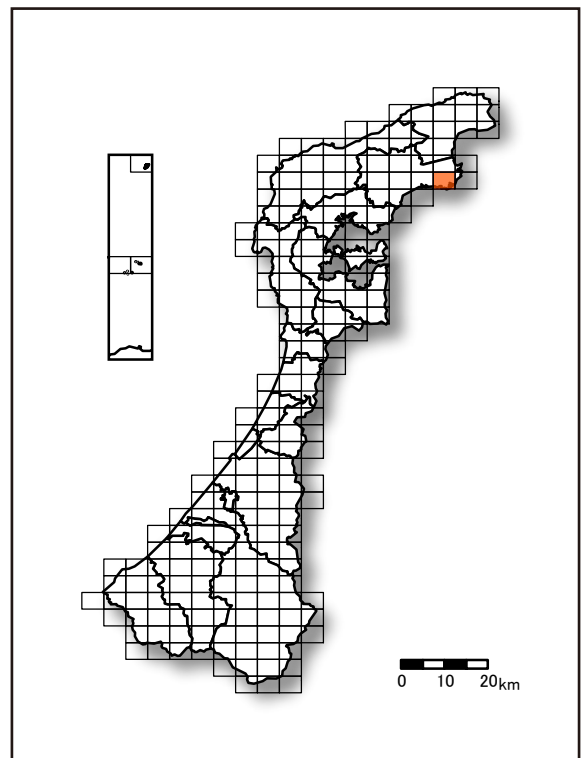
能登町九十九湾が基産地。

## 参考文献

今島実. 1973. 能登半島の九十九湾から得られた有鬚動物(Pogonophora), *Oligobrachia*属の一新種について. 金沢大学理学部附属能登臨海実験所年報, 第13巻, 7-12  
Sasayama Y., M. Matada, Y. Fukumori, M. Umebayashi, A. Matuno, T. Nakagawa and M. Imajima. 2003. External Morphology of the Posterior End, the "Opisthoma" of the Beard Worm *Oligobrachia mashikoi* (Pogonophora). *Zoological Science* 20: 1411-1416.



写真提供者: 又多政博



県内の分布